

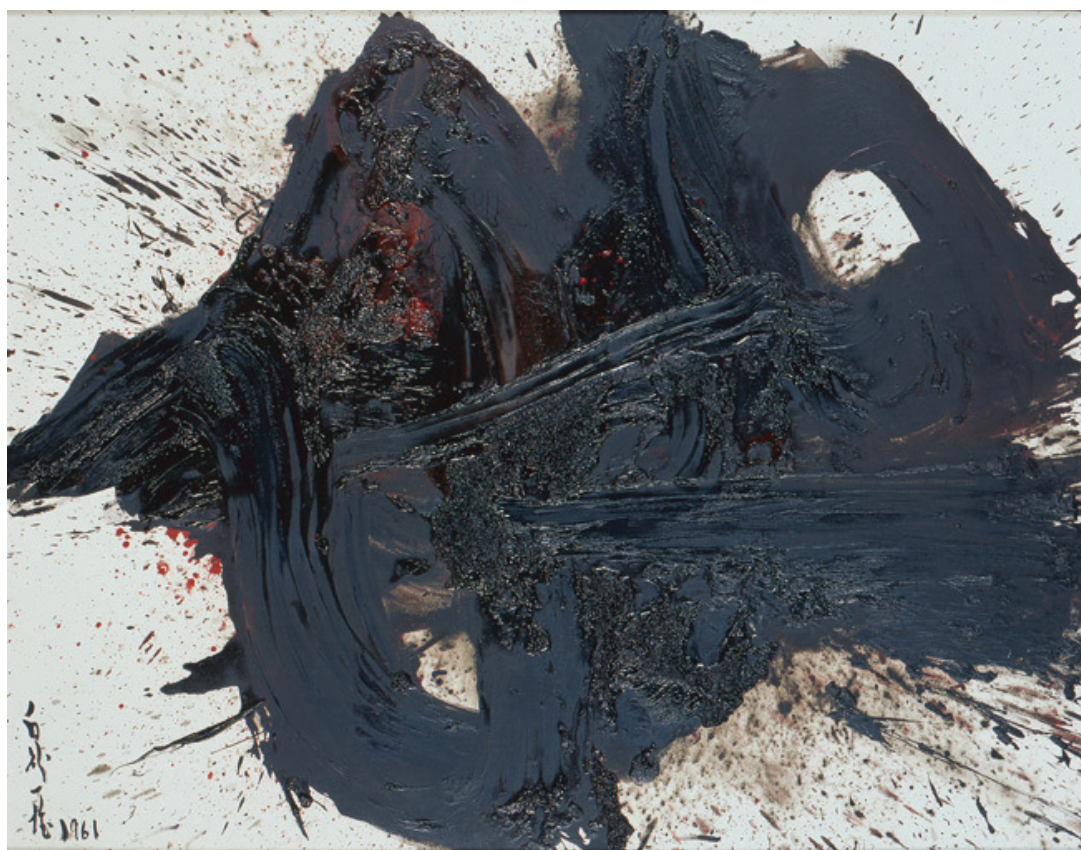
奈良県立美術館

プレスリリース／2020年3月10日

特別展 **熱い絵画** 大橋コレクションに見る戦後日本美術の力
Power of Painting: Selections from the Ohashi Collection

2020年4月18日(土)―7月5日(日) 主催・会場 奈良県立美術館

「大橋コレクション」は日本の現代美術を支援したプライベートコレクションの先駆的存在。大阪・京都・奈良の3館で収蔵する約2,000点から選んだ90点を展示。戦後昭和に躍動した画家たちの熱いエネルギーを感じてください。



(図版1) 白髪一雄「貞宗」1961年、90 x 116.3 cm 油彩・カンヴァス 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

展覧会の趣旨

近代以前から美術においてパトロン（支援者）とコレクター（収集家）の役割は欠かせません。奈良県立美術館も、吉川観方というユニークなコレクター（同時に画家・風俗史研究家）からの寄贈をきっかけに設立されました。吉川コレクションとともに当館所蔵品の核をなすのが、関西の企業家・化学者、**大橋嘉一氏**（おおはし・かいち 1896～1978）が収集した戦後日本絵画のコレクション約500点です。

大橋コレクション全体は、主に1950～60年代の絵画・版画・彫刻約2,000点にのぼり、氏の没後、1978年に奈良県立美術館と大阪の国立国際美術館、そして氏の母校である京都工芸繊維大学の美術工芸資料館に分割して寄贈されました。本展は大橋コレクションから選んだ絵画90点を紹介するもので、3館に分散した大橋コレクションが（その一部だけとはいえ）一堂に会するのは今回が初めてです。

ポイント①
展示内容の特徴

第二次世界大戦終了後の荒廃と混乱の中から再出発をした日本の美術は、特に 1950 年代以降、古い価値観から脱却して新しい表現を求める模索や実験が続き、美術界全体が大きく揺れ動きました。ヨーロッパでもアメリカでも同様に、美術は大きくそして激しく変容しました。

大橋コレクションは、美術史家や美学者ではない個人コレクターの審美眼で形成されたものなので、戦後日本美術を体系的に網羅あるいは展望する内容ではありませんが、美術表現の革新的試みが続いた 1950～60 年代の《熱さ》を十分に感じとることができます。本展では、当館 2F の 5 つの展示室それぞれに緩やかなテーマを設定して、その熱気を振り返りたいと思います。

ポイント②
現代美術と
個人コレクター

現代の作家にとって最大の支援は、言うまでもなく作品が購入されることで、現代美術のサポーターとしてのコレクターの役割は重要です。日本現代美術のプライベートコレクションというと、1950～80 年代の作品を集めた山村徳太郎氏（1926～86）の「山村コレクション」（現在は兵庫県立美術館に収蔵）や、1990 年代以降の作品に集中した高橋龍太郎氏（1946～）の「高橋コレクション」（近年各地の美術館で企画展として開催）などが知られています。大橋コレクションは、日本現代美術への眼力と愛情で築かれたプライベートコレクションの、まさに先駆的存在と言えるでしょう。

大橋嘉一氏
(1896～1978)

コレクターとして
パトロンとして

大橋嘉一氏は滋賀県大津市に生まれ、1918 年に京都高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）を卒業。三井鉱山三池染料工業所に入社し、合資会社稲畑染工場工務課長、福井染色株式会社技師長を歴任後、1928 年に大橋焼付漆工業所（現・大橋化学工業株式会社）を創立。1954 年に工学博士の学位を取得。1973 年に社長を退き会長に就任。

実業家・化学者として活躍するかたわら、1950 年代後半から 1970 年代初めにかけて日本の現代美術を積極的に収集しました。一方、1953 年に東京藝術大学に寄附をして「大橋賞」を設置し（現在は「O 氏記念奨学金」として継承）、画家を目指す学生の支援も行うなど、コレクターとしてもパトロンとしても日本の美術を支えました。

1978 年に 82 歳で逝去。同年、遺族のご好意により、約 2,000 点のコレクションは奈良県立美術館・国立国際美術館・京都工芸繊維大学美術工芸資料館に分割して寄贈されました。1997 年には国立国際美術館と奈良県立美術館で、2004 年には京都工芸繊維大学美術工芸資料館で大橋コレクションの特集展示が行われています。

▼展示構成

<p>展示室 1</p>	<p>戦中・戦前から創作活動を行っていた世代の作家たちは、戦後の大きな社会変化の中で新たな表現を模索していきました。具象を追求する作家や抽象に移行する作家など試みはさまざまです。</p>	<p>小野忠弘（おの・ただひろ） 小山田二郎（おやまだ・じろう） 桂ゆき（かつら・ゆき） 杉全直（すぎまた・ただし） 須田剋太（すだ・こくた） 田中田鶴子（たなか・たづこ） 鶴岡政男（つるおか・まさお） 難波田龍起（なんばた・たつおき） 古沢岩美（ふるさわ・いわみ）</p>
<p>展示室 2</p>	<p>戦後になって本格的な創作活動を始めた世代は、既存の価値観や造形意識に捉われない試みを行い、美や芸術の概念そのものに疑問符をつけるような、時には過激で物議をかもし表現も生み出されました。中には「絵画」と形容できない形状・素材の作品もあります。</p>	<p>赤穴宏（あかな・ひろし） 磯辺行久（いそべ・ゆきひさ） 今中クミ子（いまなか・くみこ） 江見絹子（えみ・きぬこ） 菊畑茂久馬（きくはた・もくま） 久野真（くの・しん） 津高和一（つたか・わいち） 前田常作（まえだ・じょうさく）</p>

展示室 3	日本を離れて欧米の前衛美術の動きに身を投じ、その中で注目された日本人作家を数名取り上げます。工藤哲巳と草間彌生については、渡航以前の貴重な初期作品を紹介します。	今井俊満 (いまい・としみつ) 川端実 (かわばた・みのる) 草間彌生 (くさま・やよい) 工藤哲巳 (くどう・てつみ) 堂本尚郎 (どうもと・ひさお) 宮脇愛子 (みやわき・あいこ)
展示室 4	日本の伝統美術としての「日本画」という概念は、西洋画が輸入された近代化の過程で生まれました。その「伝統」に拘泥せず、日本画の領域から絵画に変革をもたらそうと試みた作家たちも現れました。	岩崎巴人 (いわさき・はじん) 上田臥牛 (うへだ・がぎゅう) 大野倣嵩 (おのの・ひでたか) 下村良之介 (しもむら・りょうのすけ) 長崎真人 (ながさき・まこと) 野村耕 (のむら・こう) 水谷勇夫 (みずたに・いさお) 湯田寛 (ゆだ・ひろし)
展示室 5	国際的に高い評価を得た大阪の前衛集団「具体美術協会」のように、欧米から同時代の日本美術への注目は芽生えてきました。「具体美術協会」初期メンバーのうち、白髪一雄と元永定正に注目してみます。なお、奈良県立美術館の大橋コレクション約 500 点の中でも、白髪一雄の作品は突出して多く、約 120 点もあるのが一つの特徴です。	白髪一雄 (しらが・かずお) 元永定正 (もとなが・さだまさ)

▼同時開催

関連展示

※特別展観覧券で
ご覧になれます

奈良の現代作家—館蔵品から

※会場：当館 1F 展示室 6

大橋氏が東京藝術大学に設置した「大橋賞」の受賞者のうち、奈良県出身の**絹谷幸二**や**金森良泰**の作品を当館では所蔵しています。さらに奈良県ゆかりの現代美術作家では**井上武吉**や**田中敦子**の作品も所蔵しており、特に田中敦子は白髪一雄・元永定正と並んで「具体美術協会」を代表する作家の一人です。そこで関連展示として、館蔵品による奈良ゆかりの現代作家を特集いたします。

宇陀市による

連携展示

※観覧無料

井上武吉と生誕地・室生の聖なる文化

※会場：当館 1F ギャラリー

戦後日本彫刻の大家として活躍し、芸術選奨を受賞した**井上武吉** (1930-97) とその故郷・宇陀郡室生村 (現・宇陀市) の魅力を紹介。

▼展覧会の基本情報と来館案内

主催・会場

奈良県立美術館 〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 10-6
TEL 0742-23-3968 / FAX 0742-22-7032 / テレホンサービス 0742-23-1700
公式ホームページ <http://www.pref.nara.jp/11842.htm>
公式ツイッター <https://www.twitter.com/ArtmuseumN>
公式フェイスブック <https://www.facebook.com/narakenmuseum>

会期

2019年4月18日 [土] — 7月5日 [日]

特別協力

国立国際美術館、京都工芸繊維大学美術工芸資料館

後援	N H K 奈良放送局、奈良テレビ放送株式会社、株式会社奈良新聞社、西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社、奈良交通株式会社、奈良県商工会議所連合会、奈良県商工会連合会、奈良県中小企業団体中央会、株式会社南都銀行、(一社)日本旅行業協会、(一社)全国旅行業協会奈良県支部、(一社)国際観光日本レストラン協会、(一財)奈良県ビジターズビューロー、(公社)奈良市観光協会、奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合
開館時間・休館日	9時～17時(入館は閉館の30分前まで) 月曜日(5月4日は開館)と5月7日(木)は休館
観覧料	一般=800-(600)円、大・高生=600-(400)円、中・小生=400-(200)円 ※()内は団体料金(20人以上) ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と介助の方1人、外国人観光客(長期滞在者・留学生を含む)と付添の観光ボランティアガイドの方は、無料でご観覧いただけます
交通案内	近鉄・奈良駅 1番出口から奈良公園に向かって徒歩5分 JR・奈良駅 東口バス乗り場から奈良交通バスにて5分「県庁前」下車

▼会期中の催し

展覧会関連 当館主催事業	◆講演会「戦後日本の前衛美術と大橋コレクション」 講師：平井章一氏 [関西大学教授、前・京都国立近代美術館主任研究員] 5月17日(日) 14時～(13時30分開場) 会場：当館レクチャールーム(先着80席) ◆美術講座「現代美術、その多様性」 講師：当館学芸課長 安田篤生 6月7日(日) 14時～(13時30分開場) 会場：当館レクチャールーム(先着80席) ◆ギャラリートーク 4月25日(土)、5月23日(土)、6月20日(土)、7月4日(土) いずれも14時～ 展示室にて
ミュージアム コンサート	会期中、様々なジャンルの音楽演奏者を迎え、随時ミュージアムコンサートを開催します。 日程・演者は決まり次第、美術館公式ホームページ及び公式フェイスブックにてお知らせします。 コンサートの入場は無料です。 コンサートの前後に企画展をご観覧いただく場合は観覧券をお求めください。

取材のご依頼
広報に関するお問い合わせ

奈良県立美術館(展覧会企画担当：学芸課長 安田篤生)
〒630-8213 奈良県奈良市登大路町10-6
TEL 0742-23-3968 FAX 0742-22-7032
museum@mahoroba.ne.jp

2020/05/18 付記

※コロナウイルス感染拡大防止策として会期中のイベントはすべて中止いたしました

※コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言にともない4/18～5/17は臨時休館しました

▼広報用図版

- * 展覧会広報用に下記の画像を用意しております。ご希望の画像の番号（1～5）をお知らせください。
- * 必ず下記の**キャプション**もご掲載ください。字数に制約ある場合、サイズと材質・技法は省略可。
- * 掲載にあたり作品部分のトリミング、文字載せはご遠慮ください。

<p>(図版 1)</p> <p>白髪一雄 「貞宗」 1961 年 90 x 116.3 cm 油彩・カンヴァス 京都工芸繊維大学美術工芸資料館</p>		<p>白髪一雄（1924-2008）は兵庫県出身。1955 年に具体美術協会へ参加すると、一貫して素足で絵具を塗りつけるフットペインティングの手法で大胆な作品を発表し、具体美術協会の代表作家として海外でも高く評価されています。(図版 1)は具体の活動が欧米からも注目されて、最も精力的に制作していた時期の作品です。密教の宇宙観・生命観に触発された作品も多く、71 年に比叡山で得度しています。2020 年、東京の美術館では初めての大規模個展が東京オペラシティ アートギャラリーで開催（1/11～3/22）</p>
<p>(図版 2)</p> <p>桂ゆき 「大きな木」 1946 年 116.2 x 89.7 cm 油彩・カンヴァス 奈良県立美術館蔵</p>		<p>桂ゆき（1913-91）は東京都出身。1930 年代から作品を発表。わが国の女性現代美術家の草分け的存在で、1947 年に三岸節子らと女流画家協会を結成しました。1956-61 年はヨーロッパとアメリカで生活し、欧米の現代美術家たちと交流しながら積極的に発表しました。どこか幻想的でユーモアや風刺も感じさせる自由闊達な作風が特徴です。</p>
<p>(図版 3)</p> <p>津高和一「対話」 1958 年 97 x 130 cm 油彩・カンヴァス 奈良県立美術館蔵</p>		<p>津高和一（1911-95）は大阪府出身。戦前は詩人としての活動が中心で、戦後本格的に絵画の制作・発表を開始しました。線と面による抽象造形にはどこか書にも通じる東洋的な造形意識を感じさせると同時に、視覚的な「詩」と言えます。大阪芸術大学教授もつとめましたが、阪神淡路大震災で西宮市の自宅が倒壊し、不慮の死を遂げました。</p>
<p>堂本尚郎「[[無題]]」 1960 年／国立国際美術館蔵 72.5 x 100 cm／油彩・カンヴァス</p>		<p>堂本尚郎（1928-2013）は京都府出身。日本画家・堂本印象の甥。1950 年代初め、フランスの最先端の美術表現に刺激を受け、55 年に渡仏してその渦中で抽象絵画を制作、高い評価を得ました。作風はかなり変遷しますが、(図版 4)は 50 年代後半の特徴がよく表れています。フランス政府から芸術文化勲章オフィシエールを受け（2001）、日本でも文化功労者（2007）。</p>
<p>(図版 4)</p> <p>岩崎巴人 「飛び越える馬」 1960 年 138.8 x 185 cm グワッシュ・紙 奈良県立美術館蔵</p>		<p>岩崎巴人（1917-2010）は東京都出身。1958 年、長崎莫人らと日本表現派を結成。日本画の意味が問直されたこの時代に、力強く荒々しい筆致で精力的に制作しました。1970 年代には仏教的モチーフの作品が増え、77 年に出家得度しました。</p>